

## アルミの可能性を 切り開く 移動の感動をグループ一体で提供

アイシン軽金属株式会社  
代表取締役社長

西川 一 浩 氏



アイシングループの一翼を担って  
いらっしゃいます。

1970年にアイシン精機（現アイシン）、トヨタ自動車、住友化学などの出資により設立しました。当時、アルミコンビナートを目指す富山県の誘致に応えたもので、自動車部品メーカーとして、アルミの可能性に挑戦し続けています。

売上高の99%を自動車部品が占め、ダイカストが62%、押出加工が33%で、扱う部品は駆動系が53

%、車体部品が33%、エンジン部品9%、走行系が4%などとなっています。

今年4月、グループ内の再編を機に、経営理念をグループで統一し、一体となって重点領域での成長加速と、既存事業の競争力強化に向かっていきます。

**自動車業界は脱炭素社会に向け、  
電動車の普及が進んでいます。**

日本も2030年を節目に、電動車の普及がかなり進むと予想されま

す。電動車は大きく分けてハイブリッド（HV）車と電気自動（EV）車がありますが、欧州ではEV車の流れになりそうです。アイシングループは駆動系の部品を中心に生産していますが、エンジンがないEV車になると、駆動系の部品も減ります。

当社も2025年までの仕事量の見通しは立っていますが、2030年には既存商品が半減すると予想しており、新しい商品を確実に受注し、売上を拡大していくための競争力を磨くことに、注力しています。

—独自技術の強みを生かす—

新たな商品とは具体的にはどのようなことでしょうか。

やはりEV車への対応が求められます。EV車の電池は、エンジン、ミッションよりも重いので、航続距離を延ばすには車重を半減させなければいけないと言われていきます。アルミは自動車の軽量化を牽引してきた素材で、今後も構造体をはじめ色々な軽量化のニーズが見込まれます。

駆動系の鉄で作られてきた部品を、アルミで製品化することに5年前に成功し、100億円/年の事業に成長しました。また、衝突を吸収する保安部材「バンパーリインホースメント」のように材料の基本特性と形状を生かす技術もあり、新たな商品を生み出す余地がまだまだあると思っています。

ただしここでの問題は、押出加工にはボーキサイトから新しく精錬した純度の高い“新塊”を使うため、大量の電力が必要です。温室効果ガス排出量がサプライチェーンなどを含めたスコープ3基準ではあまりにも大きくなってしまいます。このままでは火力発電が

多い日本の産業の衰退に繋がりがかねません。

私たちが大きな事はできませんが、アルミコンソーシアム<sup>\*</sup>などで真剣に検討したいと思っています。**技術開発にはどのように取り組まれていますか。**

社内には「技術開発研究所」があり、開発設計や材料・工法開発などの技術系のメンバーが色々と挑戦しています。かつては私もチャレンジを繰り返し、失敗もしました。研究所には世に出ていない技術もありますが、いつか使えるかもしれない「技術の棚」を作っている会社で、失敗を恐れずに研究に力を入れています。

アルミの低圧鋳造技術を確立し2005年に「第1回ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞を受賞しました。押出成形でも加工が難しい高強度のアルミ合金の生産性を向上させ、1999年に日本塑性加工学会の技術開発賞を受賞しており、これらの技術で生産しているバンパーリインホースメントはトヨタ車の9割に搭載されています。

—マネジメント、現場重視—

人材育成についてお尋ねします。

まずはマネジメントを第一に考え、方針管理を学ぶためにデミング賞の中小企業賞や実施賞、日本品質管理賞を受賞してきました。

### 略 歴

1960(昭和35)年3月、高岡市生まれ。富山大学工学部卒。1983年アイシン軽金属(株)入社、2012年取締役、17年常務、18年副社長を経て、2021年6月から代表取締役社長。富山県アルミ産業協会副会長。

その中で階層ごとに経営者協会の研修を取り入れたり、自社独自の「はまち塾」など教育プログラムを実施しています。

また、PM（生産保全）でも複数回のPM賞を受けており、2002年にはTPMワールドクラス賞を受賞しました。QCサークル活動も積極的に取り組んでいます。**社内でのコミュニケーションはどうされていますか。**

生産部門には25のグループがあり、私が副社長になってからグループごとに話し合う機会を設けています。私は開発畑が長かったのですが、生産現場を見る部署にいたこともあり、そこで学んだトヨタ生産方式の基本は「現地現物」。実際に見て、話し合っ、改善なんです。

待っていても現場の声は届きません。何に困っているのか、現場で共有しながら改善、それがないとメンバーの共感も信用も得られません。時には昼食会を設けて、仕事の話と合わせて、コミュニケーションを取るようにしています。**女性の登用はいかがですか。**

管理職に関しては、事務部門の女性課長職が6人いますが、頭打ちです。10年程前から理系大学の女性を採用しており、そろそろ候補になる時期で、時間をかけて登用を進めていきます。



\*アルミコンソーシアム：アルミの特性を活かす産学官が取り組む研究開発プロジェクト等を推進し、新事業創出と専門人材の育成

一方、改善したいのが生産現場です。暑い、寒い、重たい仕事が多く、9割が男性なので、グループの懇談でも「女性が働きやすい職場を一緒に考えて欲しい」とお願いしているところ。

**地域貢献活動も活発です。**

地元NPOの支援や福祉施設のボランティア、イベントの際のお手伝いなどを行っています。また当社には相撲部があり、地域の相撲教室やちびっ子相撲大会を支援し、大門にある公設の相撲場の横に道場を建設しました。

私が入社した頃は知名度も低かったのですが、今では地元の企業として定着してきたと感じています。社員は地元採用ですし、私も13代目にして2人目のプロパー社長として、目指す存在となるよう頑張りどころだと思っています。

**座右の銘をお聞かせください。**

学生時代に城山三郎が好きで読んでいた小説『雄気堂々』に出てくる論語の一節、「修己安人」。上に立つ人間は常に学んで自己を高め、実践して奉仕しなさいということで、現在の立場になると、全くその通りだと思います。

### 会社概要

#### アイシン軽金属株式会社

設立：1970(昭和45)年2月  
所在地：射水市奈呉の江12-3  
資本金：15億円  
事業内容：自動車用アルミダイカスト部品、アルミ押出部品等の開発・製造  
従業員数：1,667名(2021年4月現在)  
売上高：599億円(2021年3月期)  
事業所：本社工場、有磯工場、有磯東工場  
関連会社：シンコー精機(株)、テクノメタル(株)、となみの工業(株)、アイシン・ライトメタルズ(米国)  
URL：http://www.aisin-ak.com/